

## 薩摩硫黄島の火山活動解説資料（平成 25 年 5 月）

福岡管区气象台  
火山監視・情報センター  
鹿児島地方气象台

薩摩硫黄島では、5月15日から26日にかけて振幅の小さな火山性地震が一時的にやや増加しました。

6月4日（期間外）明け方より、ごく小規模な噴火が発生しました。噴火の発生は平成16年（2004年）10月25日以来です。これに伴い、6月4日09時50分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを1（平常）から2（火口周辺規制）に引き上げました。

硫黄岳火口から概ね1キロメートルの範囲では大きな噴石を飛散させる噴火が発生する可能性がありますので、火口周辺では噴火に警戒してください。風下側では降灰に注意してください。火山周辺では、火山ガスに注意してください。

### ○ 6月4日（期間外）の活動概況（図1～7）

硫黄岳で噴火が発生しました。遠望カメラでは05時17分頃から05時35分頃にかけて少量の降灰を確認しました。噴火に伴い振幅のごく小さな火山性微動が発生しました。その後、火山性地震の増加はありませんが、振幅のごく小さな火山性微動が時々発生しています。

三島村役場硫黄島出張所によると、硫黄岳から西南西に約3kmの地点で車のフロントガラスや周辺の植物に少量の火山灰を確認しました。

午前に第十管区海上保安本部の協力を得て実施した上空からの観測では、雲のため火口の状況は不明でしたが、乳白色の噴煙と降灰を観測しました。また現地調査では、12時以降も島内で少量の降灰を観測しており、ごく小規模な噴火が断続的に発生していたと考えられます。噴火の発生は平成16年（2004年）10月25日以来です。

### ○ 5月の活動概況

#### ・噴煙など表面現象の状況（図4-①④、図8、図10、11）

硫黄岳山頂火口の噴煙活動に特段の変化はなく、白色の噴煙が火口縁上100～300mで経過し、最高で火口縁上600mまで上がりました。

同火口では9日から10日にかけて夜間に高感度カメラで確認できる程度の微弱な火映<sup>1)</sup>を観測しました。

28日と30日に実施した現地調査では、前回の調査（2012年11月）と比較して、硫黄岳北斜面から西斜面にかけての噴気の状況に特段の変化はなく、引き続きところどころでごく弱い白色の噴気が上がっていました。赤外熱映像装置<sup>2)</sup>による観測では、前回の調査（2012年11月）と比べ、硫黄岳北斜面から西斜面にかけての地表面温度分布に特段の変化は認められませんでした。

---

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成25年6月分）は平成25年7月8日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、京都大学および国土地理院のデータも利用して作成しています。資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『基盤地図情報』、『数値地図10mメッシュ（火山標高）』を使用しています（承認番号：平23情使、第467号）。

・地震や微動の発生状況（図 4-②⑤、図 6）

15 日から 26 日にかけて振幅の小さな火山性地震が一時的にやや増加しました。火山性地震の月回数は 608 回（4 月：181 回）と、少ない状態で経過しました。

火山性微動は観測されませんでした（4 月：なし）。

・地殻変動の状況（図 5、図 9）

GPS 連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

・火山ガスの状況（図 4-③）

29 日に実施した現地調査では、二酸化硫黄の平均放出量は 1 日あたり 300 トンで、前回（2012 年 11 月：400 トン/日）と比較して特段の変化は認められませんでした。

1) 赤熱した溶岩や高温の火山ガス等が、噴煙や雲に映って明るく見える現象です。



図1 薩摩硫黄島 噴煙の状況（6月4日、岩ノ上遠望カメラによる）

<6月4日の状況>

遠望カメラに火山灰が付着していることを確認しました。噴煙は天候不良のため、確認できませんでした。



図2 薩摩硫黄島 火山灰の様子 硫黄岳から西南西に約3kmの地点で撮影（6月4日06時45分頃、三島村役場硫黄島出張所提供）

<6月4日の状況>

三島村役場硫黄島出張所によると、車のフロントガラスに少量の火山灰を確認しました。



図3 薩摩硫黄島 噴煙の状況

<6月4日の状況>

第十管区海上保安本部の協力を得て実施した上空からの観測では、雲のため火口の状況は不明でしたが、乳白色の噴煙（黄円内）と降灰（赤円内）を確認しました。

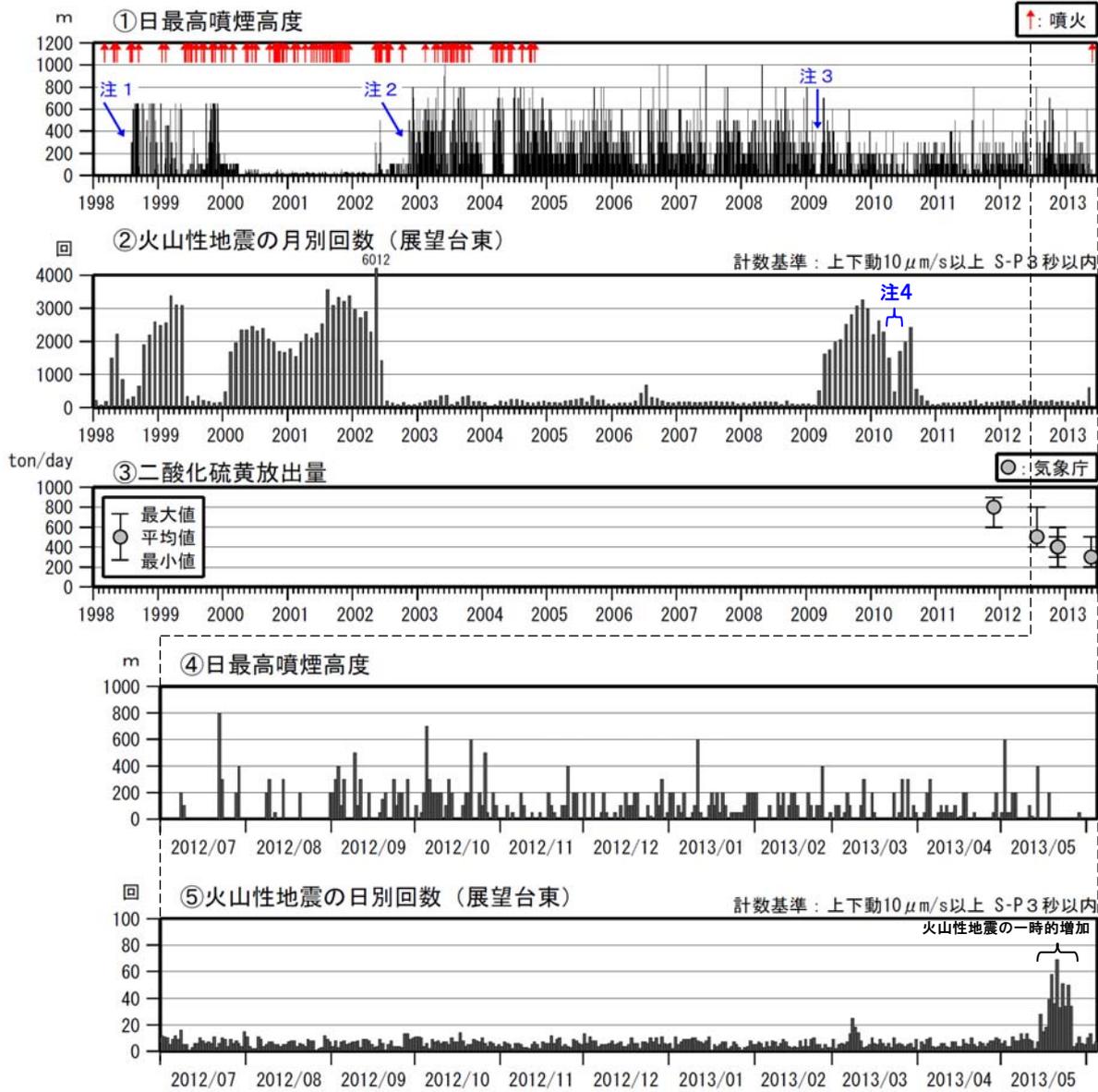


図 4 薩摩硫黄島 火山活動経過図（1998 年 1 月～2013 年 6 月 4 日）

< 6 月 4 日の状況 >

- ・ 05 時 17 分頃から 05 時 35 分頃にかけて少量の降灰があり、噴火を確認しました。
- ・ 火山性地震は少ない状態で経過しました。

< 5 月の状況 >

- ・ 硫黄岳山頂火口の噴煙活動に特段の変化はなく、白色の噴煙が火口縁上 100～300m で経過し、最高で火口縁上 600m まで上がりました。
- ・ 15 日から 26 日にかけて振幅の小さな火山性地震が一時的にやや増加しました。
- ・ 火山性地震の月回数は 608 回（4 月：181 回）と少ない状態で経過しました。
- ・ 29 日に実施した現地調査では、二酸化硫黄の平均放出量は 1 日あたり 300 トンで、前回（2012 年 11 月：400 トン/日）と比較して特段の変化は認められませんでした。

注 1 1998 年 8 月 1 日：三島村役場硫黄島出張所から気象庁へ通報開始。 注 2 2002 年 11 月 16 日：気象庁が設置した監視カメラによる観測開始。

注 3 2009 年 2 月 23 日～3 月 21 日：遠望カメラ障害のため噴煙は不明。 注 4 地震計障害のため火山性地震及び火山性微動の回数が不明の期間があります。

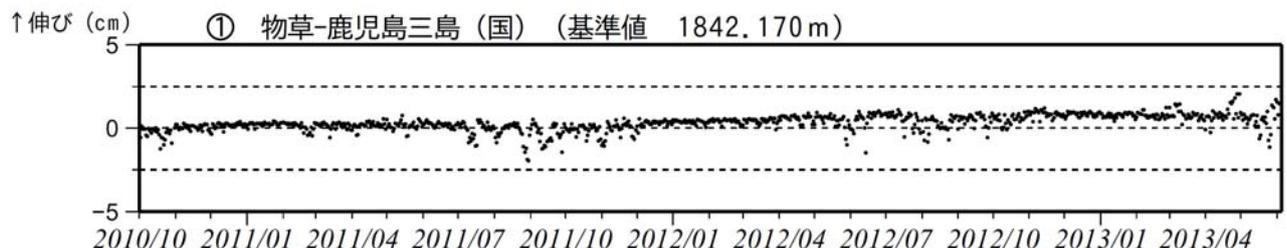


図 5 薩摩硫黄島 GPS 連続観測による基線長変化（2010 年 10 月～2013 年 6 月 4 日）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

この基線は図 10 の①に対応しています。

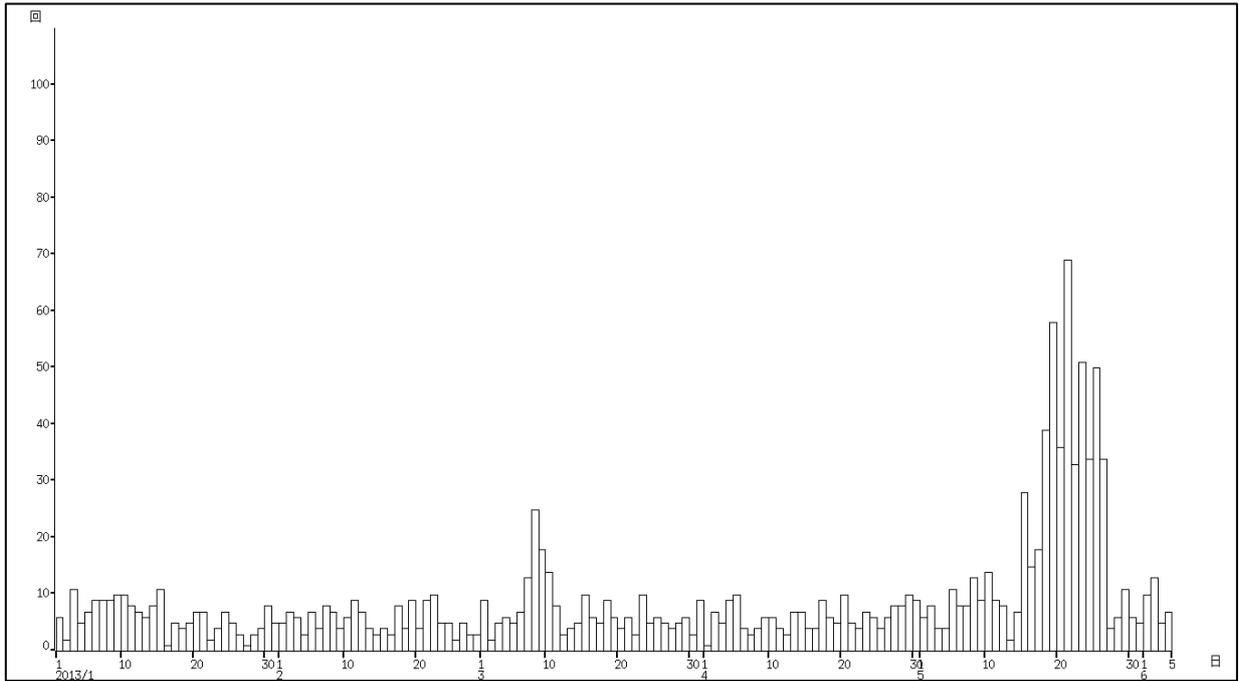


図 6 薩摩硫黄島 火山性地震の発生状況（2013 年 1 月～6 月 4 日）  
 2013 年 5 月 15 日から 26 日にかけて振幅の小さな火山性地震が一時的にやや増加しましたが、その後は少ない状態で経過しています。

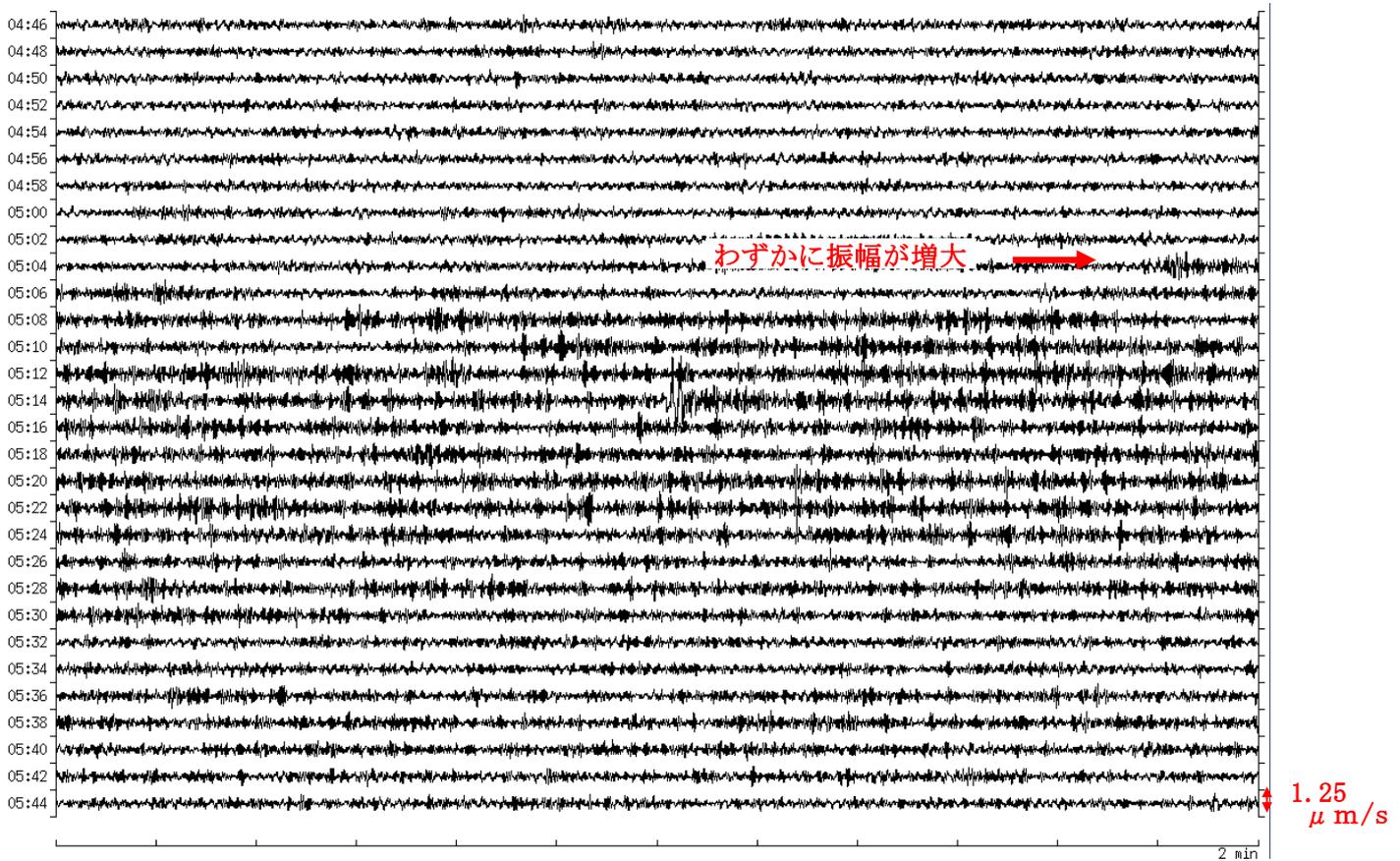


図 7 薩摩硫黄島 連続波形 2013 年 6 月 4 日 展望台東観測点上下動成分（フィルタ使用）  
 振幅のごく小さな火山性微動が発生しました。



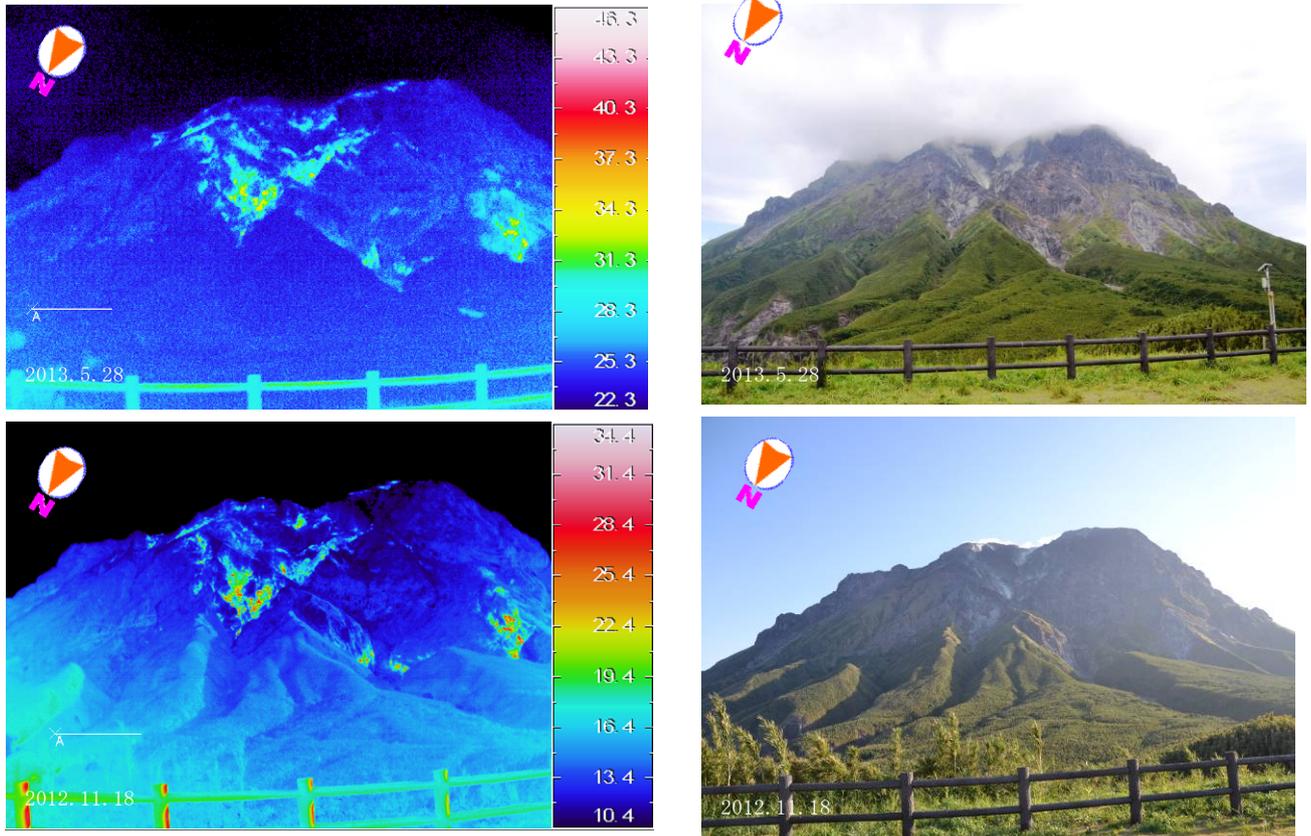


図 10 薩摩硫黄島 赤外熱映像装置による温度分布の変化 (平家城展望台から)  
 2013 年 5 月 28 日 14 時 50 分 (前回 : 2012 年 11 月 18 日 15 時 40 分)  
 前回の調査と比較して、熱異常域の面的分布に特段の変化は見られませんでした。

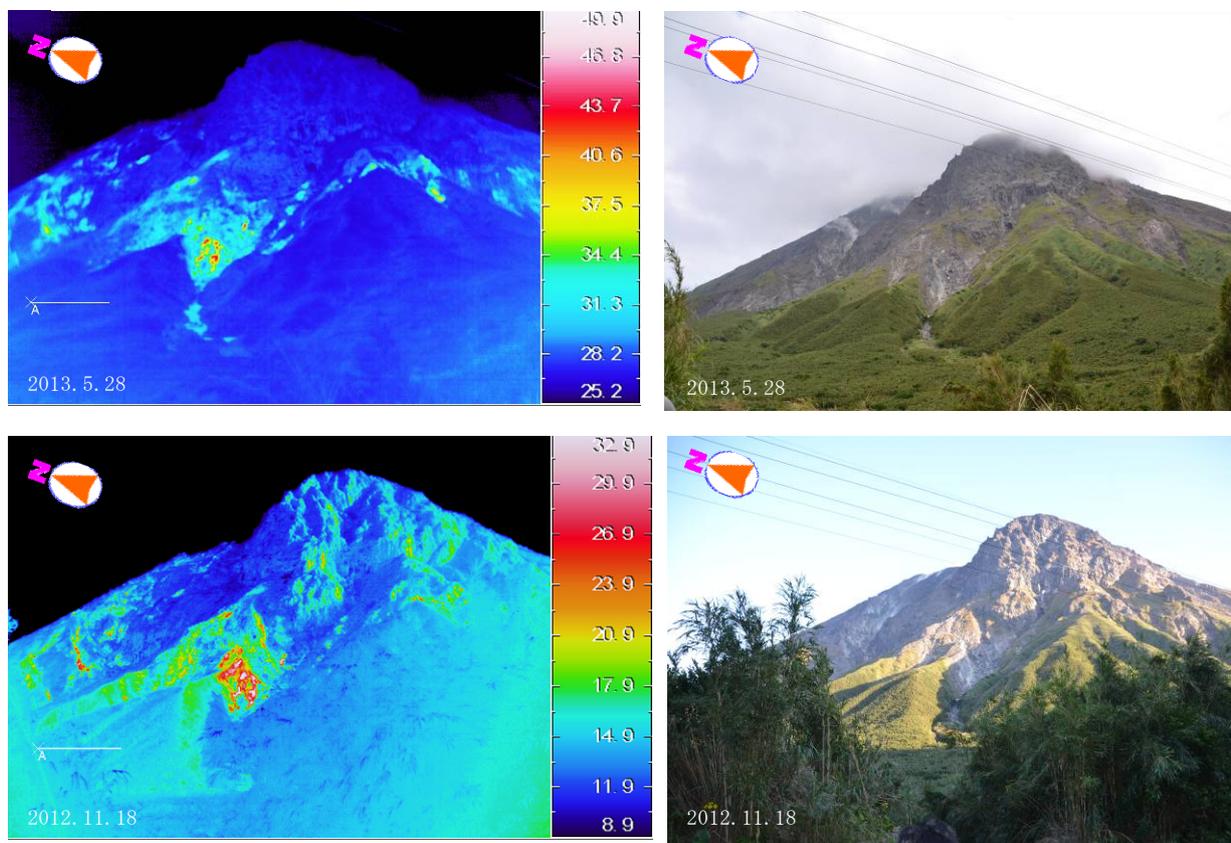


図 11 薩摩硫黄島 赤外熱映像装置による温度分布の変化 (NTT 第 3 無線中継所付近から)  
 2013 年 5 月 28 日 15 時 10 分 (前回 : 2012 年 11 月 18 日 16 時 11 分)  
 前回の調査と比較して、熱異常域の面的分布に特段の変化は見られませんでした。